

わ げん あい ご

和顔愛語

2008 VOL.11

 真生会富山病院だより



受付機が稼動
診察までの待ち時間
やプライバシーの
問題も改善され
ました。



AED講習会
※正式にはBLS講習会です。
外部から講師を招き、
BLS(一次救命処置)
の講義とAEDや人
体模型を使用した
実技で心肺蘇生
法を学びました。



オータムコンサート
刀塚医師と明橋医師の「D.A.T」、吉田良医師を
中心とした「パートナーズ」など、当院の職員が
バンドを組んで演奏を披露しました。



絵本贈呈
大島絵本館より、絵本文化振興財団の吉田力理事長
が訪れ約五十冊の絵本が寄贈されました。
(写真:北日本新聞社提供)



質の高い医療と、患者様に対する思いやり

真生会富山病院 院長 駒井 理

昨年、当院では電子カルテ、オーダーリ
ングシステムの導入という、大きな変革
がありました。患者さんの情報を共有し、
より質の高い医療を目指すのが、紙カル
テから電子カルテに切り替えた最大の目
的でした。職員間の協力と努力で、大きな混乱も
なく、順調な滑り出しができました。今年も、
更に発展したシステムとなることを期待して
います。

医療の目的、真生会の目的は、あくまでも抜
苦与楽。患者さんの苦しみを抜いて(抜苦)、幸
せになってもらう(与楽)ということ。そ
の為に、あるべき医療従事者の基本姿勢は、患
者さんに対する思いやりであると思います。
すなわち、患者さんの回復を願い、相手の幸せ
を思う「利他の精神」です。
医療崩壊と言われる厳しい昨今で、私達に出
来ること限られてはいますが、患者さんへの
気遣いを大切に、少しでも相手の幸せを応援で
きる医療を目指して進みたいと思います。

座談会 08 「南館建設について」

2ページ

嚙下障害ってなあ〜に?

歯科医師 恵森 登

10ページ

言語聴覚士 大川 千恵 言語聴覚士 山本 都佳 言語聴覚士 谷内 貴恵

48の伝えたいメッセージ

6ページ

幸せを応援できる医療をめざして
『新しいページを開く始まりへ』

医療の安心と満足を徹底的に追求した アイセンター構想を実現する南館の建設に向けて

新しい年を迎え、真生会が、より一層の「安心と満足の医療」をめざして進んでいくために、本年は大きな事業として、南館の建設が控えております。今日は関係者に集まって頂き、南館建設について話を伺います。

――まず、南館を建設することになった経緯について、真鍋副院長からお話しいただきます。

●真鍋 まず、眼科の患者さんの急増が大きな問題になりました。数が増えただけでなく、近隣の医療機関から重症の患者さんの紹介もあり、検査や説明に時間がかかり、待ち時間がとても長くなってきていたのです。その対応策として、眼科を広い場所に移して、診療の効率化をはかることが検討されました。眼科単独の建物を新築する案もあがったのですが、眼科だけの建物を建てても、病院全体の機能を考えた場合効率が悪い。そこで、以前からの課題である本館に残っていた内科などの外来

各科の整備と、本館と新館に分散していた救急の一本化を同時に実現する建物として南館が発案されました。特に眼科は外来、手術、入院という3つの機能を集約させ、アイセンターというセンター構想にまで発展させています。病院の中にアイセンターを取り込んだ施設は日本でも例を見ないと思います。

――南館の建設は真生会にとつては必要不可欠であった、ということですね。では、南館のメインとなる眼科ですが、南館に移ることで眼科はどのように変わるのでしょうか。橋本副院長、お願い致します。

●橋本 真鍋副院長のお話にもあり

ましたように外来での待ち時間が長いことでは大変なご迷惑をおかけしております。それ以外にも検査機器を設置するスペースがなくなり、他の診療スペースを借りている状況にもかかわらず、尚不足しているのが現状です。また、プライバシーへの配慮など多くの課題も抱えています。また、検査は眼科単独のものが多く、検査から治療まで眼科内で完結する場が始動ですので眼科の中では独立性の高い診療科と言えます。そこで外来の拡大だけでなくアイセンターとして南館3階に手術室、病棟も分離独立することになりました。今は手術室3室を外科系の診療科で分け合っています。眼科と眼科単独の手術室ができれば眼科と

して便利なだけでなく、眼科以外の科で新館の3室の手術室が使えますから、病院全体として機能アップします。

さらに眼科の手術は一泊二日とか、一週間以内とか、短期間の入院で治療が進んでいくことが多いため、眼科外来スタッフ、手術室スタッフと病棟スタッフの連携がとくに大切です。アイセンターとなることで、眼科専門の看護が充実して、さらに安心満足をおとどけできると思います。アイセンター全体でさらに専門性を追求し、医療の質を向上させるとともに、他科との連携にもしっかりと力を入れていきたいと考えております。



アイセンター全体で、 専門性を追求した医療の向上や 環境を整備した救急室、 降圧空調の感染症診察室も 配備します

— 日本でも例を見ない施設ということ、期待が高まってきました。完成の暁には全国から見学に来られるようになるかもしれませんね。
内科も本館から南館に移転ということですが、内科はどのようになるのでしょうか。

● 刀塚 まず、患者様へのサービスが格段に向上します。診察室が広く快適になり、プライバシーに配慮された空間になります。さらに感染症に対応できる診察室も配備します。

また、救急患者についても、現在の狭い救急室から、環境を整備した広い救急室になります。そこには経過観察用のベッドも確保していますので、静かな環境で長時間の経過観察も可能になります。

— スペース的に現在より広くなるということですね。今の話の中で出た「感染症に対応できる診察室」とはどのようなものでしょうか。

● 刀塚 感染症に対して、*陰圧空調の部屋を用意し、強い感染力を持った病気にも対応が可能になっています。現代は、鳥インフルエンザの流行も懸念され、どのような感染症が流行するか分からないなかで、感染症への準備は特に大事だと思います。

— これまで以上に安全な医療が行える環境になるということですね。看護部では、南館ができることで、ど

● 木田 南館はゆったりとした空間に加え、プライバシーに十分配慮された診察室、相談・面談にも使える指導室を準備しています。看護師は生活のサポーターとして患者様のご相談に応じたり、専門職としてのアドバイスさせていただくなど、これまで以上に患者様とコミュニケーションをはかっていきたいと思っております。

また、南館の特徴の一つとして現在の眼科外来が、「アイセンター」という形でリニューアルされます。眼科専門のセンターとして外来・病棟・手術室の連携を強化して現在の課題を解決し、より質の高い医療、看護をめざしていきたいと思っております。



看護事業室室長 木田 真由美

副医局長 内科医師 刀塚 俊起



専門分野：造血腫瘍、血液免疫、膠原病、内分泌
日本内科学会専門医
日本血液学会専門医
ICD(感染対策医)、医学博士



副院長
眼科医師
橋本 義弘

専門分野：屈折矯正手術、日本角膜学会
日本網膜硝子体学会
日本眼科学会専門医
眼科 PDT認定医

—看護部として、今まで以上に力を発揮できるようになるといこうとですね。

今回南館に、内科と一緒に検査室も一部移転すると聞いていますが、成瀬課長、南館での検査はどうなるのかについて教えてください。

●成瀬 南館の検査室は現在と比較して、内科診察室に近くなります。

患者様にとって最適な環境を整え地域の皆様の健康を応援することで射水市、富山県が元気になれる医療を

検査が最も多いのは内科であり、患者様の動線がより短くなること有利です。単純X線室も近くにあり、ほとんどの検査がその周囲で可能となります。機械的なシテムの変更はありませんが、患者様や職員の動線が大きく変わり便利になることでしょうか。

また、採血室は今の内科処置室と内科検査室採血室が統合されることとなります。これにより看護師と検査技師がお互いに協力しな



中央検査課課長
成瀬 智

がら仕事をするという点で良い方向に向かうものと考えます。私達検査技師もチーム医療の一員として臨床に役に立てるようにがんばりたいと思います。

—多職種でしっかりチームを組んで患者様の診察にあたることでできるということは素晴らしいですね。南館が完成するとますます真生会が広くなり、患者様のご案内も大変になると思いますが、水尻さん、フロアマネジャーとしてどのように考えているか、お聞かせ頂けますか。また、医事課ではどのような準備がなされているのか、竹垣主任にもお願いします。

●水尻 南館が完成しますと、総合案内のある新館と、現在の内科や耳鼻科のある本館と、そして南



フロアマネジャー
水尻 梨恵子

館の3つの棟をご利用いただくこととなります。移動の範囲が広がることで、患者様にはご負担をおかけしてしまいますが、移動のお手伝いや院内のご案内など、ボランティアの導入も現在検討しています。

患者様に少しでも不安なく診療を受けていただけるよう、細やかな心配りをしていきたいと思っています。

●竹垣 設計の段階で、「患者様の動線をいかに短くするか」ということについて、言い換えますと受付から診察、会計までの流れをいかに単純明快にするか、を検討しました。

また、スタッフから患者様の様子が分かるよう受付の向きやイスの配置なども検討を重ねてきました。南館ができますと、個人情報保護の観点から受付番号での呼び出しになります。受付番号は待合に画面で表示される事になりますので、自分がどこの診察室であるか何人目ほど呼ばれるかが分かるようになり、待ち時間がある程度把握出来るようになります。こんなことから患者様の待ち時間の有効利用にお役に立てるのではない

かと期待しています。

すでに昨年の夏より再来受付機が稼動し複数科の受付が一度に出るようになりました。

現在、受診時に出して頂いている受付票の右上に番号が表示されています。これは現在活用されていませんが、将来番号呼び出しに使われます。このようにすでに南館に向けて動いているものもあります。

新しいシステムがどんどん導入され便利にはなりますが、番号で呼ばれることに不安を感じる方もいらっしゃると思います。そのような方は遠慮なくスタッフに声をかけて頂ければお名前でご案内をさせていただきます。



副院長
耳鼻咽喉科医師

真鍋

恭弘

専門分野：耳の手術、睡眠時無呼吸症の治療
いびき手術、発声障害、心因性耳鼻科疾患
アレルギー性鼻炎のレーザー治療
日本耳鼻咽喉科学会専門医、医学博士



医事課主任

竹垣 幸恵

——南館はこれまで以上に患者様の立場にたった医療を目指して建設されるのがよくわかります。では管理課の松田課長、実際の建物の設計で苦勞しておられる点などを聞かせてください。

●松田 「患者様にとって最適な環境を整えたい」という思いは、スタッフ共通なのですが、いざ形にしようとする、一人一人の描くイメージが異なります。それを病院の統一した要求事項とするため、意見調整が必要なのですが、なかなかまとまりませんでした。そんなとき助けてくださったのが、新館建設のときから関わって頂いている建築家の方です。真生会富山病院の理念を深く理解し、私たち病院スタッフの要求以上に、どんな提案してくださるので、大き

な作業ではありましたが最終的により良い形にまとめることができましたと思っております。

——皆さんのお話を伺い、南館の完成がより一層待ち遠しくなってきました。今後の予定についてわかる範囲で教えていただけますでしょうか。

●松田 現在最終調整をしておりませんが、このまま予定通りに進めば今年の秋頃に工事着工し、来年秋に完成の予定です。引越しをスムーズに行い、万全の体制で患者様をお迎えできるようにしたいと考えています。



管理課課長

松田 雅樹

——完成が楽しみです。最後に真鍋副院長から南館建設にあたって、地域住民の方々へ一言お願い致します。

●真鍋 南館は、患者様の安心と満足を徹底的に追求して、設計されています。スタッフも患者さんに、安心して医療を受けていただき、満足して帰っていただけるよう努力を惜しみませんので、お気づきのことや、ご要望があれば、何でもおっしゃってください。周囲の医療諸機関の先生方とも協力し、地域の皆さんの健康を応援すること、射水市、そして、富山県が元気になるような医療を行っていきたいですね。

——はい。南館の概要が皆さんのお話を通して明らかになってまいりました。南館ができることにより、現在の眼科跡には消化器科が、そして内科の跡には健診、人間ドック設備の充実がはかれることも予定されています。さらなる医療サービスの向上を目指し、本年も職員一丸となって進ませたいと思います。

本日は皆さん、お忙しいところ集まっていたいただき、ありがとうございます。

※陰圧空調の部屋：室内の空気を強制的に外に排出させることにより、空気感染を防ぐことができる部屋。

歯科医師
編集局長
もり森 登



広 報誌「和顔愛語」を通して真生の医療や職員について知っていただき、親しみを持っていただけばと思います。
また各科ごとのパンフレットを作成し、患者の皆様安心して受診していただく上でのお手伝いをしていきます。

歯 科のスタッフは、勉強会や研修会などに参加して、日々新しい知識と技術の習得に励んでいます。昨年も3名のスタッフが「ホワイトニングコーディネーター」の資格を取得しました。

患者様に納得して頂ける技術を提供できるよう、一人一人に与えられた責任を果たすべく今年も頑張ります。



歯科衛生課士長
いなだ 稲田まどか

医事管理部長
歯科医師
いなだまさかず 稲田雅一



病 院は、病を抱える多くの患者様が来院される場所です。

しかし、それと共に、昨年は、不審者もあり、盗難も発生しました。ひとりでも多くの患者様が安心して受診できるよう、職員一同、防犯や施設の維持管理に更に取り組んでゆきたく思います。

本年もよろしくお願ひ致します。

今 年も、病院での診療、児童相談所での嘱託業務、スクールカウンセラー、あるいは講演などを通して、メンタルヘルスの治療、予防、啓発、子育て支援に力を尽くしたいと思います。

また、NPO法人子どもの権利支援センター「ばれっと」を通して、子どもの居場所の提供、虐待リスクのある家族の再統合事業、インターネット上の相談掲示板の運営などを行っていきたく思っています。



心療内科医師
あけはしだいじ 明橋大二

看護部部長
(さくら病棟)
かみじょうたか 上條孝子



患 者様が必要とされている看護を提供していくために、現任教育の体制を整え、看護の質の向上に努めていきたいと思ひます。
そして、看護師一人ひとりが質を高めるといふ目的を共有し、患者様が何を望んでおられるか、患者様の言葉に耳を傾けサポートしていくことで患者様の安心・満足へと繋げていきたいと思ひます。

看 護師が、今までの経験で一番印象に残っている患者様との出会いで、自分がそのときに何に価値をおいていたかを振り返ると、それは今大切にしているものと、きつとつながっていると思ひます。「看護」をやめられない人は、みんなそうではないかと思ひます。その価値・大切にしているもの・こだわりが、真生会の理念の実践につながるよう、みんな看護の成果を出していきたいです。



看護部部長
(わかば病棟)
かとうあや 加藤礼

内科医師
(神経内科)
おおたまさなり 太田雅也



本 年4月からの後期

高齢者医療制度の創設に伴い、主治医制度が検討されています。問題点も多くありますが、総合的な診療が大切なことは当然です。特に在宅医療においては、その場でできる検査も限られており、このまま在宅で治療を続けても大丈夫か、それとも、病院での精密検査が必要か、適確な判断が主治医に要求されます。

患者さんにとって最善の医療を提供していきたいと思ひます。

電 子カルテも軌道に乗り、診療の効率がアップしていますが、その分、患者さんと向き合う時間が増やせるよう努力します。

今まで行ってきた肩関節鏡手術の実績成果を学会発表等で積極的にアピールしていきます。ホームページでも分かりやすく内容を充実したものにし、全国に発信してゆきます。



整形外科医師
おおた 太田 悟

ページを開く始まりへ』

(50音順)



院長
整形外科医師
おつしまさひろ 駒井 理

看護部部長補佐
(外来・内視鏡)
くすのき さなえ 楠 早苗



診 療報酬改定、DPC、オーダーリングシステム・電子カルテの導入など、さまざまな時代の流れと南館建設準備の中、看護師として大変な意識・知識改革がありました。しかし、看護師は今までと同様に患者様とのふれあいを通して、看護のやりがいや仕事への満足感を高めています。今年も患者様に安心・満足していただける、質の高い外来看護サービスを提供できるよう、スタッフと共に頑張りたいと思ひます。

昨 年6月より「看護事業室」が開設となり担当させていただきます。

真生会富山病院の全体整備計画の推進を任務として、地域の患者様から愛され、喜んでいただける病院、そしてスタッフ一人一人が生き生きとやりがいを持って働くことができる環境をめざし、病院・看護部の架け橋となってがんばってまいります。



看護事業室室長
きだまゆみ 木田真由美

サービス支援室室長
きくらこ 木倉スミ子



ク レーム対応などの、現場からの学びをもっとみんなで共有し、共に向上していきたいと思ひます。

患 者様とご家族の不安と苦痛を、一刻も早く取り除けるよう、患者様やご家族は勿論のこと、職員一人ひとりの声をしっかりと受け止め、チーム医療の責任者として、今年も全力を尽くします。



消化器科医師
かわい 河相 覚

代行
課長
佐々木 誠



「真生会の強みを認識し、それをアピールする
ことで患者さんに選ばれる病院になるよう、今
年もがんばります。よろしくお願致します。」

「DPCは制度自体がまだ不安定で、国の方針が短期間のうちに
変わることもあります。しかし、比較
分析して、自院の強み・弱みを知るとい
う根底の考え方は変わりません。」

医療において、情報の果たす役割はますます重要
になっています。

診療録(カルテ)や検査結果、
保険など患者様個人の医療情報
はもちろんのこと、院内での
診療の進み具合や物品の管理
など、病院の運用や経営に関す
る情報も多種多様です。これら
の情報を有効活用することで、
医療の効率化と質の向上、患者
サービスの向上に貢献できる
システムづくり
を目指します。

情報室室長
坂根 俊介



看護部部長補佐
(さくら病棟)
酒井 保子



患者様に安心して入院生
活を送って頂けるように、
誠実で責任ある看護の提供を
モットーとし、様々な看護の場
面で患者様のニーズにお応え
していきます。今年も宜しくお
願致します。

昨年は、医療制度の激変時の中、当院
でも電子カルテが導入され医療の
質の向上と効率的な医療提供体制が整
いました。看護をお届けできる私たち
は、信頼できる看護、感性を豊かにしてそ
患者様から親しまれる看護師となりえます。
感性を豊かにすることは、関心を持たなけれ
ばできません。お相手に寄り添った個性のあ
る適切な看護を追究していきたいと思
います。

看護部部長
酒井 貴子



事務局担当理事
公認会計士
館 修



「真生会職員は、苦しみを除き
幸せを与える抜苦と楽を目的と致します。」
この「真生会職員信条」の最初の言葉を常に
忘れず、常時前進を誓います。

「真生会富山医院のオープンから20
年目の年を迎えます。医院から
病院となり、敷地も、建物も、職員も、
何倍も大きくなりました。大きくな
るに従い、私たち職員も成長しなければ
なりません。「真生会職員は、苦しみを除き
幸せを与える抜苦と楽を目的と致します。」

昨 年赴任してより、早いもので半
年が経ちました。
管理課にて建物の安全をサポートし、
皆様が安全に働ける環境であり続け
るよう努力していきたいと思
います。
これからの増築に向けて、課題はいろいろ
あると思いますが、一つずつ乗り越えてスタ
ッフにも患者様にもやさしい病院となるよう
にがんばりたいと思います。

管理課課長補佐
青野 茂和



消化器科医師
真野 鋭志



これまでの5年間、肝臓病
専門医療、栄養サポート
チーム(NST)、消化器科の発
展分離に力を入れてきました。
今年、患者数が多いにも関
わらず、治療法の進歩が止ま
っている便秘に焦点を当て、便秘
専門外来、便秘教室、便秘の研
究を軌道に乗せます。

運動不足、飽食、ストレス
により、糖尿病や肥満など、
生活習慣病と言われる病気が、
大きな問題になっています。
そこで、少しでも生活習慣の
改善をお手伝いし、地域住民の
皆様が、いつまでも若々しく、
健康で楽しい生活が送れるよう、
応援したいと考えています。
その為に、漢方薬と西洋薬を
併用し、一人一人の患者様に適
した、きめ細かな診療を心がけ
てまいります。

内科医師
(東洋医学)
清水 和彦



48の伝えたいメッセージ

幸せを応援できる医療をめざして

『新しい』

耳鼻咽喉科医師
富田 かおり



地

地域の患者様の生活の質の向
上の為、さらなる知識、技
術の取得に努めていき
たいと思
います。

個々の年齢にあった無理
のない保育を心がけると
ともに、子どもがのびのびと
日々を過ごせる安らぎの場を
設定し、環境を常に整えてい
くよう配慮し、子どもの奥に秘め
られた自ら伸びる芽を見逃さず、
温かく見守りながら、子ども
たちと共に成長していきたいです。
また、お母さん方が安心して
働くことができる託児施設を
目指します。

保育課課長
橘 真知子



皮膚科医師
刀川 信幸



① 自 利他と和顔愛語の理
念に近づける様、努力す
る事。
② : ①達成のためにON、OF
Fの区別をつける事、OFFの
時には自らの健康に留意する事。
③ : スピードよりも確実性を
重視しミスを防ぐ事。
以上を目標にがんばります。

これまで手探りでおこな
ってきたような診療で
すが、幸い優秀なスタッフと設
備に恵まれて、なんとかここま
できたと思います。たくさん
の患者様から実にいろいろな
ことを教えていただきました。
何が良くて何が不十分なのか、
きちんと見直します。そして
良いところを伸ばし、改善すべ
きところを改善して、よりよい
眼科医療を提供できるよう飛
躍の年とします。

眼科医師
館 奈保子



中央検査課課長
成瀬 智



本年は特定健康診断が始まること
もあり、検査の増加がかなり予想
されますが、正確なデータを診療側に
提供できるようにがんばっていきたく
と思います。また新しい検査として感染
症の機械を入れて緊急で対応できるよ
うにしたいと考えています。コメディカルとし
てこれまで以上に他部署とのコミュニケー
ションも積極的にしていきたいと思
います。

内科は昨年、消化器科に続
いて呼吸器科が独立し
ました。また専門外来が発足し、
多くの患者様に受診していただ
きました。

名実ともに真生会の屋台骨と
なるように、より患者様に向き
合い、適切な医療を提供できる
ように今年もスタッフと一丸
となって取り組んでいきます。



内科医師
(血液・感染症)
刀塚 俊起

呼吸器科医師
中西 正教



医療には医学そのもの

から、患者様へのサービス、
社会への奉仕、医療経済など様々
な内容が含まれ、それらすべてを
良くする事は大変な事と感じ
ます。

しかし、何より患者様の利益
を最大限にし、不利益を最小限
にする事が私達の責務と考え
ます。少々理屈っぽくなりました
が、日々前進を目指して取り
組みたいと思います。

利用して下さる方が増え、
訪問看護ステーションが軌道に
乗りつつあることを実感して
おります。訪問スタッフ1人1人
が、訪問先で患者様、ご家族
の喜び、悲しみを分かち合い、
ステーション内で他のスタッフ
と共有し、次のよりよい訪問
看護へと結び付けていく姿は
頼もしいものです。

この循環を軌道に乗せ、地域
に広げていける1年にしたい
と思っています。



訪問看護ステーション
こころ所長
中井 ともこ

皮膚科医師
花川 博義



「お役所仕事」を辞書で調べてみると「形式主義に流れ、不親切で非能率的な役所の仕事振りを非難するという語」とあります。さすれば「お役所対応」は「決められたことを言い、やるべき処理をしてしまえば任務は終了。相手がどうなっているようが我関せず。」といったところでしょうか。病院はそうであってはならないと自戒しております。患者様が主役であり、病気が治った時が任務の終了した時。その心がけて今年も頑張ります。

新春座談会の中にもありますように、真生会アイ
センターの準備に奔走する1
年になりそうです。

目的は「安心満足の医療」を患者
様職員と共有することですが、
アイセンターとするからには、
スタッフ一同専門性を高め、で
きる限りの最新機器を導入し
て医療の質を確保しなければ
なりません。目標は高く、しか
し、歩みは一步一步確実に、
今年1年積み上げてゆきたい
と思います。



副院長
眼科医師
橋本 義弘

薬剤課課長の
野島 恵



目標に、他の医療スタッフとも連携して、病棟における薬剤師の活動の幅を広げていこうと考えています。また、抗がん剤治療に対して、用法用量や副作用のチェックなど、薬剤師の立場から積極的に関与していきたいと思
います。

薬剤課は、昨年より、入院患者様へのお薬の説明を中心とした、病棟業務の強化に取り組んでまいりました。今年も、さらに質の高い病棟業務を

昨年は、オーダリング・電子カルテ・中央会計・再来受付機の稼働とめぐるしくシステムが変わりました。今年はそのシステムをさらに充実したものにしていきます。また、患者様の気持ちに寄り添った細やかな対応を目指していきたいと思
います。



医事課課長
布川 鏡子

仏教に説かれてる自利自他の精神に基づいて、 安心と満足の医療を目指します。

内科医師
(糖尿病)
平谷 和幸



昨年、約6年ぶりに真生会に戻ってきました。約6年間の大学生活では「インスリン抵抗性」についての研究を行ってきました。基礎研究と日常診療との間には大きな隔りがありますが、バックグラウンドとしては大きなものを得た気がします。大学で学んだことを今年も、メタボリックシンドロームを中心にした日常の診療に生かしたいと思
います。

今年は各検査ごとのより専門的な知識の充実をはかるため、各機械ごと(CT、MRI)のグループ分けをし、リーダーを決め、放射線課全体をひっぱりついで体制を実行してゆきます。

そのリーダーを中心に現行の検査の改善点などを検討し、より先生がたに有用な診療情報を提供できるように体制を整備し、向上心を持ち続けられる職場作りをめざします。



中央放射線課課長
平田 昭美

麻酔科医師
濱田 富美男



今年も、痛くない麻酔、長期予後のよくなる麻酔を目指します。

『口は禍の門』とも……。けれど、和顔愛語を心掛ければ、『幸せの門』にもなることでしょう。

今年も、自信をもって和顔愛語できる口元をつくるお手伝いを致します。



歯科医師
花崎 広子

内科医師(循環器)
ほり た たか ひろ
堀田孝裕



当院でも、昨年10月から心臓のカテーテル検査、手足の血管の狭い部分を拡げる手術、心臓ペースメーカーの植え込みなど、幅広い検査や手術ができるようになりました。今年、更なるステップアップをして、皆様のご希望にお応えできる循環器内科医になりたいと思います。

今年も常に向上心を忘れず、安全第一、患者様に満足して頂ける外科治療をお届けしたいと思えます。成人そけいヘルニア(脱腸)の手術は最新のクーゲル法で行っています。手術後の痛みも軽く、再発も少ない優れた方法です。手術以外にも外来抗がん剤治療、緩和医療、外傷の湿潤治療(痛みが少なく、早く治る治療)にも力を入れていきます。

※クーゲル法:従来の方法は、ヘルニアの出口を糸で縫ってふさいでいましたが、クーゲル法では、形状記憶リングに録取られたポリプロピレン製の楕円形メッシュで内側から腹膜を覆い、腸が出てくるのを防ぎます。手術時間も短く、術後の痛みも少ない方法です。

外科医師
ふる たに まさ はる
古谷正晴



内科医師(腎臓)
ふた むら あき ひろ
二村明広



透析室を開業してから一年が経ちました。血液透析はもとより、血漿(けっしょう)交換や血漿吸着、薬物中毒に対する緊急透析など様々な血液浄化療法を行い成果は十分でした。更に飛躍が見込まれる今年、いよいよ午前と午後の2クール制を導入しました。透析医療の進歩がある一方で診療報酬は年々厳しくなっていますが、まず患者様ありき、の理念に合ったより良い透析医療をスタッフとともに追求していきます。

当院に来て下さる皆さんは、本当に真生会を信頼されて受診頂いていると感じます。しかし、良いと思ってさせて頂いても、その方の思いに沿わず、信頼にお応えできないこともあります。すべての方に十分なサービスをお届けすることの難しさを痛感します。自分達だけの自己満足にならないよう、患者さんと共に、より良い安心と満足の医療を提供できるように努めて参りたいと思っております。今年もよろしくお願ひします。

消化器科医師
ひら な ひろ ふみ
平名浩史



看護部部長
(手術室・中材)
のこ
野宮みち子



手術室看護部・中材看護助手は、業務の特殊性から一人前になるのに数年を要します。患者様の生命と直結し、常に緊張感を強いられる仕事を抱え、多忙極まる職場環境でありながらも効率化を推進し手術件数は毎年増加傾向にあります。年間2500件以上、スタッフの約半数が、5年以上の経験を有し、集団年齢は「老年期」といえますが、医療情勢に合わせた変化を積極的に取り込み、スタッフ一人ひとりが主体的に行動を起こし、力を発揮してチームを活性化させています。本年も培った知識、技術を活かして患者様に寄り添った手術室看護の提供に努力し、チームの成長をめざします。

昨年は、関係スタッフの努力で全体整備プロジェクト、医療安全管理への取り組みが軌道に乗りました。今年、医療品質管理のメインテーマである医療の品質に関わる取り組みを行い、たいと考えています。医療の主人公は患者さん、患者満足(PTS)のないところに良質な医療はないという意識を全職員が持って、PTSのために自分はどうしようという実際の行動が起るような取り組みをしたいと思ひます。

副院長
耳鼻咽喉科医師
ま なべ やす ひろ
真鍋恭弘



管理課課長
まつ だ まさ き
松田雅樹



現在、平成21年度の南館竣工を目指し、さらに既存部分も含めた施設全体の見直しも並行して行っています。医療をとりまく環境の変化や地域の皆様のご要望に耳を傾けながら、どうすればより良い療養環境を実現できるか、真剣に考え、整備していきたいと思ひます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は電子カルテが稼働し、非常に便利になりました。十技術の賜物と思ひます。今年、更に充実させ、全医師が患者様の診察に充分な時間が取れるようにしたいと思ひます。そして医療サービスの向上と和顔愛語の実践を目標としてお願ひします。

医局長
外科医師
ほん だ まさ はる
本多正治



苦しみを除き、幸せを与える抜苦与楽を目的と致します。
正確に迅速に確認第一を心がけ日々医療サービスの向上に努力致します。
苦しいときこそ和顔愛語に努めます。

呼吸器科医師
よし だ よし まさ
吉田良昌



各部署の連携が迅速な当院の特徴を活かし、真生会でもできない臨床研究をしていくとともに、アンチエイジングに関する研究を中心に学会発表できるように準備していきます。また、地域医療部としては病院機能評価にも取り組みます。皆さんもお気軽に地域医療部へ来てください。近頃では、その効果が認められつつある音楽療法士としてもがんばります。

患者様に安心と満足をお届けする職員が、安心満足して働ける職場でなければ、それは続きません。職員が存分に力を発揮できるよう、職場環境を整えていきたいと思います。

総務部長
よし だ たか ひさ
吉田充寿



泌尿器科医師
よこ やま とよ あき
横山豊明



泌尿器科というと、なんとなく受診にくい科だと思ひますが、当科では、ご都合が悪い方に、安心して受診して頂けることをモットーにしております。排尿困難、尿失禁などでお困りの方は、ぜひご相談ください。昨年より導入しました、体外衝撃波結石破砕装置(ESWL)も順調に稼働しております。今年、尿路結石症の治療に積極的に取り組んでいきたいと思います。

「患

皮膚科医師
やなぎ はら まこと
柳原 誠



嚥下障害

食事の注意点と飲み込み機能のチェックポイント

食べるということは、単に栄養を摂るということではなく、「おいしい」「うれしい」といった喜びから、生きることの希望につながる大切なものなのです。脳の病気を発症した方や高齢の方などは、多かれ少なかれ、食べ物や飲み物を飲み込むことが難しくなります。そのような方がうまく食べられないと肺炎になり、生命を脅かすこともあるので、大変注意が必要です。



言語聴覚士
 やまもと みやか 谷内 たかえ 貴恵
 山本 都佳 ちえ
 おおかわ ちえ
 大川 千恵

安全でおいしく食べるためのポイント

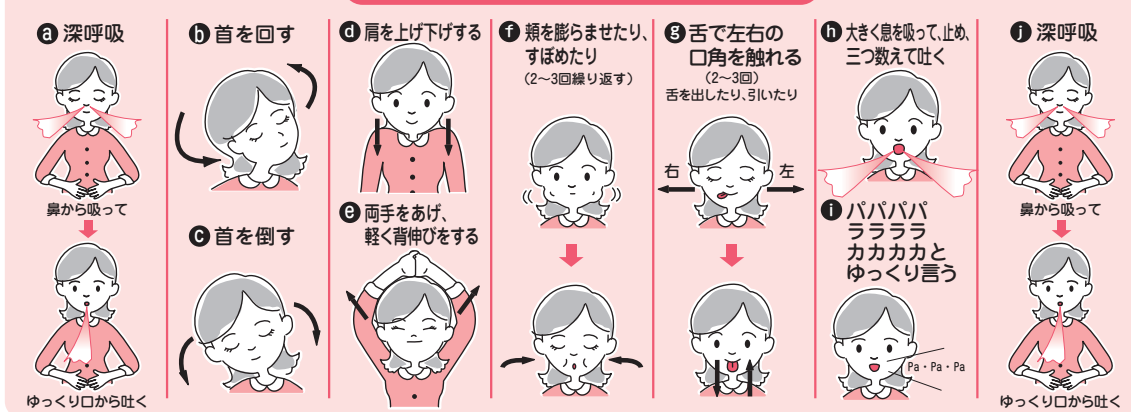
1. 口の中を清潔にしましょう！

口の中が不衛生だと細菌が繁殖し、その細菌を多く含んだ唾液を誤嚥すると肺炎になる危険性があります。歯のある人は普段からしっかり磨きましょう！歯のない人も、食後は必ずうがいをしたり、湿ったガーゼなどでふき取ったりして、口の中をきれいにしましょう！

2. 食時の前に準備体操をしましょう！

首や口などを動かすことは、リラックスできると同時に、飲み込むための準備運動になるため、食事の前に行うことをお勧めします。

食べる前の準備体操・嚥下体操



安全に楽しく食べるためにも、普段から口の中をきれいにし、意図的に口を動かしてみましょう。また、話すことも口の運動になりますので、積極的に会話をするのもよい練習といえます。

飲み込み機能チェックポイント

1. 肺炎と診断されたことがある。
2. 食べ物やよだれが口からこぼれやすい。
3. 硬いものがかみにくい
4. 食べ物、飲み物が飲み込みにくい。
5. 飲み込んだ後も口の中に食べ物が残りやすい。
6. 食べた後、痰がからんだようなガラガラ声になる。
7. 食べ物がのどの奥でつまる感じがする。
8. 食べた後、喉がからんだ感じがする。
9. 食事に時間がかかり疲れやすい。
10. 体重が減少している。

嚥下障害ってなあに？

「嚥下障害」という言葉を聞かれたことがありますか。「嚥下」とは「食物を飲み込むこと」ですので、嚥下障害とは、簡単に言うと「飲み込みの障害」ということとなります。人は、これから食事が始まるということを認知し、目で食べ物を見て種類などを識別し、口の中で唾液を増やし、それから食べ物をお口の中に送り込みます。そして口の中で飲みやすい状態にしてから、飲み込んで、食べ物を食道から胃へと送り込むのです。これらは一連の動作ですので、これらの動作に不都合が起きたことをまとめて「摂食・嚥下障害(ものを食べる能力全般の障害)」と言います。

このような障害は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷などによって、食べ物を飲み込む動作を支配している脳に障害が出てしまった場合に起こることが最も多いのですが、その他にも老化、口腔内の炎症や、薬の副作用で起きることもあります。



歯科医師
 えもり のぼる
 恵森 登
 【専門分野】
 顎関節症
 口腔乾燥症 (ドライマウス)
 【所属学会】
 日本老年歯科医学会

以上のような症状が複数みられる場合は、嚥下障害が疑われます。何か気になることがありましたら主治医にご相談ください。必要に応じて「言語聴覚士」が検査し、その方に応じたりハビリや、食べる時の注意点などのアドバイスをさせていただきます。

普段の何気ないことが実は嚥下障害のサインかもしれません。そのサインを見逃さないように皆さんも食事の際に、「飲み込む」ということを意識してみてください。

専門外来

完全予約制

特定の臓器や病気、症状について専門的な診断・治療をする外来です。診断・治療が難しい体の症状や、専門的な治療が必要な病気などについて各専門の医師が診察にあたります。予約制で、きめ細かな医療サービスの提供を心がけています。

専門外来をご希望の方は、外来診察予定表をご覧いただき、通常の診察時間に専門医を受診してご予約ください。急患の方は、内科救急で受け付けています。

真生会富山病院 総合受付 TEL0766-52-2156

お通じ専門外来

●月曜日
午後2時～午後4時

食生活の欧米化や不規則な生活、運動不足、ストレスなど、私たちを取り巻く環境は便秘の原因でいっぱいです。便秘から癌が発見される場合もあります。便秘をスッキリ解消し“快食快便”を。お気軽にご相談ください。



しんの えいじ
真野 鋭志

【専門分野】
化器一般、生活習慣病
臨床栄養学、便秘治療
【所属学会】
日本肝臓学会
日本消化器内視鏡学会
日本静脈経腸栄養学会
米国内科学会
【認定医・専門医】
日本内科学会専門医
日本消化器学会専門医
日本肝臓学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

血液・免疫専門外来

●火曜日
午後2時～午後4時

血液・免疫外来では、急性・慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、膠原病など、それぞれの病態を把握した治療を行います。丁寧でわかりやすい説明と、ふみこんだ治療を心がけています。



なたづか としき
刀塚 俊起

【専門分野】
造血腫瘍、血液免疫
膠原病、内分泌
【認定医・専門医】
日本内科学会専門医
日本血液学会専門医
ICD(感染対策医)
血液専門医、医学博士

糖尿病専門外来

●水曜日
午後2時～午後4時

糖尿病のほとんどは、遺伝的要素に過食や運動不足、ストレスなど生活習慣が加わり発症するものです。患者様の状況に応じた、生活指導を心がけ、まず患者様がごできることからサポートさせていただきたいと考えております。



ひらたに かずゆき
平谷 和幸

【専門分野】
糖尿病
医学博士

透析専門外来

●木曜日
午後2時～午後4時

当院では、透析を受けておられる患者様に安心して日常生活を送って頂くサポート体制を整えています。また、透析に至らないように予防にも力を入れています。腎臓が悪いと言われた方はいつでもご相談ください。



ふたむら あきひろ
二村 明広

【専門分野】
腎臓・循環器疾患、腎炎
ネフローゼ疾患、透析治療
【認定医・専門医】
日本内科学会内科認定医
日本腎臓病学会認定医
日本透析医学会認定医
医学博士

呼吸器専門外来

●金曜日
午後2時～午後3時

呼吸器系の病気(気管支喘息、肺炎腫、慢性気管支炎、慢性呼吸不全、肺線維症、睡眠時無呼吸症候群、肺炎)などを診察します。特にARDS(急性呼吸促進症候群)の病気や治療法についての十分な情報提供を心がけています。



なかにし まさのり
中西 正教

【専門分野】
呼吸器疾患全般
肺癌、呼吸器感染症
【認定医・専門医】
日本内科学会内科認定医
日本呼吸器学会専門医
日本呼吸器内視鏡学会専門医
医学博士

漢方専門外来

●金曜日
午後3時～午後4時

古来より「未然を防ぎ、未病を治す」ことが大事と言われていています。アレルギー疾患(鼻炎、アトピー性皮膚炎、喘息)、胃腸病、更年期障害、冷え性、リウマチ、肝臓病など慢性疾患を中心に幅広く診療しています。



しみず かずひこ
清水 和彦

【専門分野】
東洋医学、漢方(全分野)
リウマチ、膠原病、糖尿病
【認定医・専門医】
日本内科学会内科専門医
東洋医学専門医
医学博士

私のおすすめSPOT



視能訓練士
うえの あつこ
上野 敦子

私のオススメするお店は、めちゃうまモツ鍋☆絶品とんかつ「にし川」です。お肉にホルモン、どの素材も新鮮で味付けが美味しい。家族で夕食に最高の「モツ鍋」を食べるもよし、一人で絶品の「とんかつ」を頂くもよし!!リーズナブルな料金で優しい庶民の味です。ホルモンに関しては、お持ち帰りもできるので家で食べたり、バーベキューにも喜ばれること間違いありません。マスターや奥さんも気さくでアットホームなお店なので皆さんもぜひ一度、絶品の味を堪能して下さい。

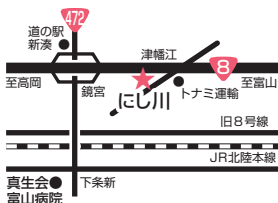
国道8号線津幡江交差点沿いにあるにし川は、美味しく、安心して召し上がれる家族的なホルモン料理のお店。人気メニューはモツ鍋、トントロ。豚のほほ肉で、霜降りがトロそっくりなのでその名がついたトントロは、コラーゲンたっぷり女性に人気。他に、豚のサガリ、牛カルビなど、毎日独自のルートで仕入れるので新鮮で美味しく、遠方からのリピーターも多い。また、昼頃より、お持ち帰り用の味付モツも販売している。まず、お客様を大切に、オーナーの西川清勝さん。



にし川

射水市津幡江108-2
Tel 0766-84-7842

●営業時間/午後5時～午後10時
●定休日/第2、第4日曜日
駐車場完備



ちょっと一言

患者様の気持ちを考え、喜ばれる対応ができるように

一枚の処方せんには歴史があります。患者様の性別や年齢、薬の種類や量、飲み方や日数、処方された時間や曜日に至るまで、処方せんの中には、様々な理由と患者様の背景があります。それらをよく汲み取ることが、患者様が一番喜ばれ安心される説明につながるのではないかと考えています。いつも飲んでる薬との飲み合わせが心配。変更になった薬はどれだろう。など、患者様の思いは一人一人違います。その気持ちをよく考え、患者様が喜ばれる対応ができるように、これからも研鑽をしていきたいと思います。

薬剤課 内藤 義徳



